

会員各位

岐阜県病院薬剤師会
会長 伊藤 善規

第 257 回岐阜県病院薬剤師会研修会開催のご案内

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。
さて、下記のとおり研修会を開催しますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。

敬具

記

日時：平成 23 年 1 月 29 日（土）午後 2 時 30 分より

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695 - 2 Tel (058) 296 - 1200

【内容】 総合司会 国保 坂下病院 薬剤部 西尾 晃

1、 会長挨拶

2、 会員報告

1. 薬学生実務実習委員会報告—実務実習第Ⅰ期、第Ⅱ期を終えて—

薬学生実務実習委員長 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部 岡安 伸二 先生

2. 中濃地区における薬薬連携の取り組みと今後について

中濃厚生病院 薬剤科 鷺見 千恵 先生

3. 当院におけるがん化学療法レジメン管理システムの構築および調製支援シートの運用

社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院 薬剤部 荒川 大輔 先生

参加費：薬剤師会会員 500 円 非会員 2000 円

* 当研修会は岐阜県病院薬剤師会研修制度及び日本薬剤師研修センター研修制度に該当する研修会です。

主催 岐阜県病院薬剤師会

薬学生実務実習委員会報告

－実務実習第Ⅰ期、Ⅱ期を終えて－

薬学生実務実習委員会委員長 岡安 伸二

【はじめに】今年度より、医療人としてふさわしい問題解決能力を有する薬剤師養成を目的として、薬学教育6年制の参加型長期実務実習が開始となった。本委員会は平成19年9月に発足し、受入可能施設および指導可能実習項目調査、4年制実習生を対象としたミニトライアル実施、SGDで使用する課題例作成、実習手順書作成などいくつかの長期実務実習の準備を進めてきた。また、実務実習開始後も適宜委員会を開催し、実習の問題点など情報交換を積極的に行ってきた。第Ⅰ期、Ⅱ期実習を終了した時点において、各施設より様々な問題点が挙げられたことより、実習受入施設を対象としてアンケート調査を実施したので報告する。

【方法】今年度岐阜県の病院においては20施設、125人(岐阜ブロック:9施設72人、中濃ブロック:4施設16人、西濃ブロック:2施設19人、東濃ブロック:3施設15名、飛騨ブロック:2施設3名)の学生受入があった。第Ⅱ期終了時点にて、Ⅰ期、Ⅱ期受入実習施設(16施設)に対して、以下の内容についてアンケート調査を実施した。

- ・ 実務実習コアカリキュラムの問題点
- ・ 実習による薬剤業務への影響
- ・ 大学教員訪問の現状(6大学)
- ・ 使用した実習システム(アズビ・プラン、富士ゼロックス)の問題点
- ・ 学生の理解度(4年制実習と比較して)
- ・ 当委員会が作成した課題集および実習手順書の使用状況

【結果】実務実習コアカリキュラムについては一部実施が困難であったSBOsが見受けられた。また、全体的な見直しが必要であるとの意見もあった。実習により日常業務への影響があったとの回答が75%、大学教員の訪問が有効であったとの回答が52%であった。使用した実習システムについては統一すべきとの意見が多く見受けられた。学生の理解度は4年制と比較して、期待通りとの回答が94%を占めていた。当委員会が作成した課題集および実習手順書の使用状況は、それぞれ81%、63%であった。

【まとめ】アンケートの結果、6年制長期実務実習について多くの問題点が挙げられた。今後も薬学生実務実習委員会として実習が円滑に進められるように取り組んでいく予定である。また、近々学生による多施設合同実習報告会の開催も予定している。

中濃地区における薬薬連携の取り組みと今後

○ 鷺見 千恵¹⁾ 山本 むつみ¹⁾ 高田 実¹⁾ 早見 知浩¹⁾ 足立 茂樹¹⁾
三品 慶高¹⁾、辻 一智¹⁾、守屋 猛¹⁾、丹羽 智子²⁾

1)中濃厚生病院 2) 岐阜県薬剤師会関支部

【はじめに】

日本薬剤師会は、平成 18 年 3 月に、患者により安全で継続した薬物療法を提供するため、医療機関の薬剤師と薬局の薬剤師との連携に関し「医療安全のための薬局薬剤師と病院薬剤師の連携について」を示した。これにより岐阜県では、平成 19 年度より薬薬連携のモデル事業を下呂地区で開始した。さらに、平成 21 年度からは、県薬地域支部に事業を拡大するため病薬の 5 ブロックに連携病院を指定し、中濃地区では中濃厚生病院が指定された。今回、県薬関支部との間で行ってきた薬薬連携について報告するとともに、中濃地区の薬剤師に薬薬連携についてアンケートを実施したのでその結果と、今後の活動についても紹介する。

【活動内容】

平成 21 年 4 月から、病薬中濃ブロック、県薬関支部が別々に開催していた研修会を合同で開催開始（年 8 回）。平成 21 年 12 月に中濃地区薬薬連携連絡会を設置し第一回の連絡会を開催、今後の進め方について協議する。病院薬剤師は、入院患者に対して同意のもとかかりつけ薬局に FAX にて入院を知らせ、患者情報の提供を依頼する。依頼を受けた薬局薬剤師は「情報提供連絡書」に該当患者の情報を記載し返信する。また、病院薬剤師は退院患者に対して「退院サマリー」を作成し、患者に渡しかかりつけ薬局へ持参するよう説明する。ことを決定した。平成 22 年 1 月県薬関支部と中濃厚生病院の薬剤師で意見交換会および懇親会を開催。平成 22 年 3 月第 2 回中濃地区薬薬連携連絡会開催。平成 22 年 6 月三師会理事会にて薬薬連携ネットワーク推進事業説明。平成 22 年 7 月第 3 回中濃地区薬薬連携連絡会開催。平成 23 年 1 月第 4 回中濃地区薬薬連携連絡会開催。

【活動結果】

平成 22 年 1 月から平成 22 年 11 月までの 11 ヶ月間に、入院情報依頼件数 339 件、報告件数 339 件で 100% の報告率であった。しかし、退院サマリー交付件数 301 件に対し薬局での受付件数は 117 件で到達率は 39% であった。また、この活動を通して、病院薬剤師からは、不整脈の既往を持つ患者が以前服用していた薬について、速やかに主治医に報告することができた。散剤、識別コードのない薬剤、後発品の情報が分かり入院後の処方が速やかにできた。患者が認識していない副作用歴について情報があり、事前にその薬剤に対する注意ができた等の意見があった。また薬局薬剤師からは、化学療法の種類・投与スケジュールがわかり副作用チェックや休薬期間の確認ができた。入院目的・入院中の病態変化、病院での服薬指導の流れがわかり、来局時スムーズに服薬指導ができるようになった。退院サマリーに検査値の記入があり、大変参考になった等の意見があった。

【アンケート結果】

病院薬剤師(回答数 15 病院 60 人)；『薬薬連携』の活動内容について知っていますか？知っているが 65%、詳しくは分からない 33%、知らない 0% であった。また、『薬薬連携』への意欲はありますか？やってみたい 38%、興味はあるが何とも言えない 61%、やりたくない 0% であった。

薬局薬剤師(回答数 47 人)；『薬薬連携』の活動内容について知っていますか？知っている 89%、聞いたことはあるが詳しくは分からない 11%、知らない 0% であった。また『薬薬連携』への関わったことがありますか？関わったことがある 83%、関わったことはない 17% であった。今後、活動を継続したいですか？今後も継続する 53%、活動内容の見直しを条件に継続する 26%、継続したくない 0% であった。薬薬連携活動前後の病院との情報のやり取りについて、やり取りしやすくなった 21%、変わらない 62%、その他 11% であった。今後、薬薬連携の中で病院側に期待する情報は何か？(複数回答可)、入院中の薬歴 72%、入院中に起きた副作用 81%、服薬状況 47%、調剤方法 60%、その他 11% であった。

【考察】

今回の薬薬連携の活動で病院・薬局薬剤師からの情報提供により、患者に対し服薬指導がスムーズに行えるようになった。しかし、マンパワーの不足等により 1 ヶ月平均入院情報提供は 31 件、退院サマリー発行は 27 件と少ない。また、退院サマリーの薬局への到達率が 39% と低く、今後薬薬連携連絡会で協議し退院サマリー発行率、到達率向上にむけ取り組んでいきたい。

当院におけるがん化学療法レジメン管理システムの構築および調製支援シートの運用

¹松波総合病院 薬剤部、²同システム開発部

○荒川大輔¹、中山清吾¹、横山英典¹、重田和也¹、松本利恵¹、山北慎吾²、野田孝夫¹

【目的】 当院では、市販ソフトを利用したがん化学療法レジメン管理システムを構築した。さらに抗がん剤無菌調製に必要な情報と薬液採取量の自動計算結果を調製支援シートとして発行している。レジメン管理システム導入と調製支援シートの運用で、がん化学療法に於ける安全性の向上および業務の効率化が図れたので報告する。

【システム概要】 院内がん化学療法委員会で承認の得られたレジメンをレジメン管理システムに登録する。がん化学療法を行う際、医師が使用レジメンを選択し、「患者情報」「投与日」を入力すると、100%dose が自動計算される。同時に「治療計画書」「患者説明文書」「同意書」が出力される。調製支援シートの薬液採取量は、オーダーリングシステム情報を基に自動計算される。調製時に必要なその他の情報は「抗がん剤マスター」に登録されている。

【結果】 今回レジメン管理システム導入により、治療計画が明確化され、薬剤部における投与量、投与間隔の確認が容易となった。

【考察】 レジメン管理システム導入、調製支援シートの作成により安全な抗がん剤投与、調製が行えるようになった。今後オーダーセット登録を内服・注射ともに行えるようにシステムを改修し、他部署との協力・連携により更に安全で効果的ながん化学療法を実施したい。

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日時：平成 23 年 1 月 29 日（土）午後 4 時 00 分より

場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 TEL (058) 296—1200

■製品紹介

『 不整脈治療剤 アミオダロン塩酸塩速崩錠「TE」の製剤特性 』

トーアエイヨー株式会社

■特別講演

座長 岐阜県病院薬剤師会 会長 伊藤 善規 先生

『日本病院薬剤師会の活動状況と今後の

薬剤師業務の展望 』

日本病院薬剤師会 会長 堀内 龍也 先生

共催 岐阜県病院薬剤師会
トーアエイヨー株式会社

※ 講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日時：平成23年1月29日（土）午後4時00分より

場所：長良川国際会議場 4階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 TEL (058) 296—1200

■製品紹介

『 不整脈治療剤 アミオダロン塩酸塩速崩錠「TE」の製剤特性 』

トーアエイヨー株式会社

■特別講演

座長 岐阜県病院薬剤師会 会長 伊藤 善規 先生

『日本病院薬剤師会の現状と今後について』

日本病院薬剤師会 会長 堀内 龍也 先生

共催 岐阜県病院薬剤師会
トーアエイヨー株式会社

※ 講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。